

「歴史総合」実施初年度の授業

神奈川県立横浜翠嵐高等学校教諭 矢野 慎一

1. はじめに

2022年4月より、全国の高等学校で新しい歴史科目「歴史総合」の授業が始まり、私は幸運にも横浜翠嵐高校で、1年生の「歴史総合」を担当する機会を与えられた。小論は、これから「歴史総合」を担当する先生方に私の取り組みを紹介することで、次年度以降の授業へのヒントを示すことを目的とする。なお、横浜翠嵐高校で使用している教科書は、木畑洋一・成田龍一編『詳述歴史総合』（実教出版）、資料集は、『新詳歴史総合』（浜島書店）である。

2. 「歴史総合」の理念

文部科学省が、高等学校学習指導要領（平成30年告示）で「歴史総合」の内容を明らかにして以来、歴史研究者や教育研究者、そして現場の高校教員などから数多くの提案がなされてきた。特に成田龍一（日本女子大学名誉教授）は、様々な場面で「歴史総合」についての発言を続けている。日頃、成田から大きな薫陶を受けている者として、現場の教員が成田の主張をどう理解し、授業に応用するべきなのかを常に考えている。

成田の議論に依拠しながら、私なりの「歴史総合」の授業への理解をまとめると、次の通りとなる。

- ① 日本と世界の近現代史（18世紀以降）を「総合」して学ぶ科目である。
- ② さまざまな資料に基づいて、生徒が自ら「問い」を立てられるようにする科目である。「問い」を立てるとは、歴史的な出来事の因果関係を考えることだ。そのために主題学習を行う。

- ③ 現代を、長い射程と広い視野で歴史的にとらえることができるようにする科目である。つまり、現代を近代からの歴史の帰結として理解すると同時に、今後の展望を考えることである。
- ④ 歴史の「場」を、「グローバル・リージョナル・ナショナル・ローカル」という四層構造でとらえ、特にローカルを重視しつつ、ローカルとグローバルとのつながりを意識して学ぶ科目である。「歴史総合」で強調されている「私たちが立脚しているのは、まさにローカルそのものなのだ。」

3. 授業の組み立て

以上のような「歴史総合」への理解を踏まえた上で、私が今年度の授業開始にあたり目標にしたことは、まず一年間で教科書を近代から現代まで全て終わらせることだ。これは前述の通り、現代史と、そこに至る近代以降のプロセスを学ぶことこそが「歴史総合」の主目標だと考えるからである。そして日々の授業では、通史学習と主題学習とを適切に組み合わせること、また主題学習ではなるべく多くの「神奈川の地域資料」を用いることを目指した。

そこであらためて、教科書（『詳述歴史総合』）の構成を確認してみると、本書は2頁を1単元とする通史学習が65項目で、主題学習（テーマ学習と資料読解）が27項目ある。これに「近代化」「大衆化」「グローバル化」への導入の頁や各章の扉など、その他諸々の項目を加えると合計で100項目以上となる。ふつうに1項目（1単元）を1時間で教えるすると、年間授業時数を大幅に超過することは明らかだ。そこで私は、基本的に2項

目4頁(2単元)を1時間で扱う(もちろん重要と判断する部分は、1単元1時間とする)。授業で使用するプリントは、教科書本文を要約した通史学習(穴埋め)と「小さな」主題学習とを組み合わせつつある。

4. 授業の進め方

授業でまず生徒は教科書を読み、その単元の流れを大枠で理解する。プリントの「小さな」主題学習とは、教科書や資料集(副読本)に掲載されていたり、私自身が収集した史資料や図版、地図、グラフをもとにした「問い」で、生徒はその内容を調べたり考察した結果を、黒板に書いて発表する。全てが出揃ったところで、私が全体を見渡しながら個々に解説を加え、適宜生徒に問いかけ、応答させながら授業を進める。かなり盛りだくさんで、時間の配分には気を遣うし、スピード感も大切だ。ただしここでは、詳しい知識を教え込むのではなく、生徒自身が学びの糸口に気づくことや、「問い」の調べ方、考え方を身につけることを大切にしている。

5. 主題学習

教科書にある通史とは別の27項目の「大きな」主題学習では、「国民国家」「植民地」「ジェンダー」「総力戦」「大衆社会」「人の移動」といった重要な概念や、「ホロコースト」「沖縄戦」「米軍基地と沖縄」などを学ぶ。これらのテーマは、現在の歴史研究の主要な論点となるものだ。ところが、これまでの日本史教育では概念について十分な学習がおこなわれてこなかったため、「歴史総合」ではあらためて重点的に学ぶべきだとされている。生徒がこうした概念をしっかりと学ぶことで、自らの歴史観の骨格を形成することができるだろう。またできることならば、通史学習と「大きな」主題学習(概念)を直接組み合わせた授業も実現させたいが、これはなかなかの難問であり今後の課題としたい。

さて現在、各社から出版されている教科書や資料集はそれぞれ様々な特色をもち、かつ非常に精緻につくられている。図版や資料なども豊富に提供されていて、主題学習のネタもたくさんある。しかし、結局は私たち教員がそれらを読み解き、取舍選択し、「問い」を考えながら授業を組み立てることが求められる。

6. 「神奈川の地域資料」

先に授業プリントの「小さな」主題学習で取り上げると述べた「神奈川の地域資料」とは、神奈川の教員研究会(社会科部会歴史分科会の日本史研究推進委員会)の調査・研究活動で得られた成果である。実際に今年度の授業で取り扱った資料には、次のようなものがある。

- ① 江戸時代末期の横須賀製鉄所(のちの横須賀海軍工廠)建設に際し、江戸幕府とフランスの間で結ばれた「横須賀製鉄所約定書」。史料には、フランス人技師レオンス＝ヴェルニーの名も記されている。
- ② 武相困民党事件を記録した『細野喜代四郎日記』。困民党の集いに詰めかける人びとの姿を、フランス革命での「バステューユ牢獄襲撃」のようだと表現している。
- ③ 大逆事件に連座して処刑された、箱根町林泉寺の住職内山愚童が、寺の本堂で秘密裏に印刷した『入獄記念・無政府共産・革命』。海外からもたらされた、日本の初期社会主義思想がよくわかる。合わせて、林泉寺にある内山愚童の墓も紹介する。
- ④ フランスの植民地支配下にあったベトナムで東遊(ドンズー)運動を始め、留学生をつれて来日したファン＝ボイ＝チャウを金銭的に援助した、小田原市国府津の医師浅羽佐喜太郎に関する記録などである。

こうした地域資料は、グローバルとローカルを結びつける力をもつものだ。

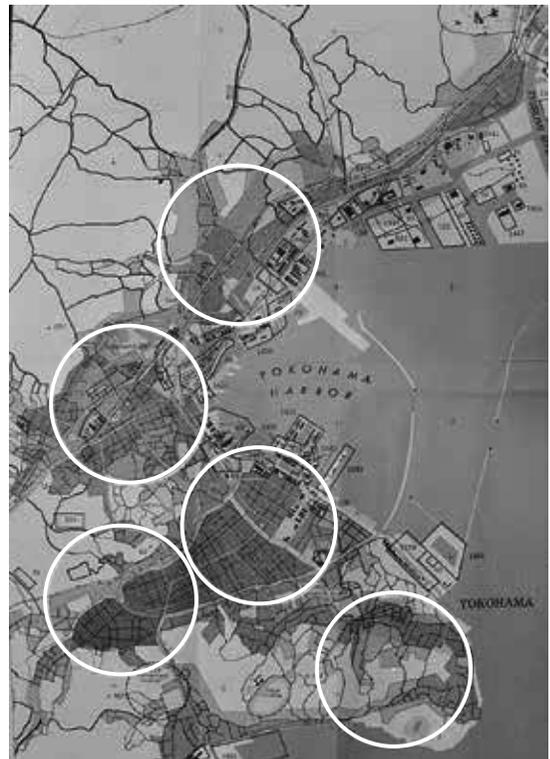
7. 「空襲」

最後に、私が長年ライフワークの一つとして取り組んでいる「空襲」について紹介したい。アジア太平洋戦争末期に連合国軍が日本本土で行った「空襲」は、歴史的用語として教科書に記されているが、決して過去のものではない。ウクライナでの戦争が続く中、まさに現代的な課題として取り上げられるべきだ。通史の一部に埋め込まれてしまっている「空襲」を、あらためて主題としてとらえ直すには、まさに「歴史総合」の主題学習で学ぶことこそがふさわしい。生徒は、「空襲」を通して過去の戦争と現代の戦争を結びつけて考え、今も昔も戦争の被害を最も強く受けるのは一般の人々であることに気づくことができるだろう。

この主題学習で活用することのできる資料には、アメリカ国立公文書館が所蔵する、アメリカ軍撮影の航空写真や、空襲に先だって作成された地図（図1）、空襲後に提出された作戦任務報告書などがある。さらに、日本各地で1970年代から今も続いている「空襲記録運動」で集められた、空襲体験者の証言や被災地図、被災写真（図2）がある。こうした資料については、各地の戦争博物館で調べることができる。例えば、名古屋市名東区の『戦争と平和の資料館ピースあいち』（図3）や、東京都江東区の「東京大空襲・戦災資料センター」、静岡市の「静岡平和資料センター」、岡山市の「岡山空襲展示室」などである。これらは「空襲」に特化した博物館だが、そうした施設がないところでも、公立の博物館・図書館や、地域で「空襲記録運動」に取り組んでいる団体に問い合わせてみることをおすすめする。私の地元の神奈川では、「横浜の空襲を記録する会」、「平塚の戦災と空襲を記録する会」、「戦時下の小田原地方を記録する会」（図2）などがある。ぜひ地域（ローカル）の資料で、「空襲」（グローバル）を学んでほしい。

8. おわりに

ここまで、私の拙い授業実践の概略を紹介してきた。今後も「歴史総合」指導法の研究と「神奈川の地域資料」の発掘と教材化にさらに励んでいきたい。そして、小論をお読みくださった先生方が、それぞれの地域でグローバルとつながった資料を掘り起こし、特色ある授業を創り出されることを願っている。



（図1）横浜大空襲の爆撃中心点が記入された地図
アメリカ国立公文書館所蔵 工藤洋三氏提供

1945年5月29日におこなわれた横浜大空襲のために、アメリカ軍が作成した地図である。横浜の市街地に5か所の爆撃中心点（MPI）が記入されている。爆撃中心点とは、B29爆撃機が爆弾を投下する目標地点のことで、効果的に市街地を焼き払うために設定された。この図では、5つの円の中心がそれにあたる。



(図2) 小田原空襲の被災写真
古清水旅館所蔵
戦時下の小田原地方を記録する会提供

1945年8月15日未明、1機のB29爆撃機が小田原の市街地に焼夷弾を投下し、そのため402戸の住宅が焼かれ、12人が亡くなった。この写真は、古清水旅館の主人が、わざわざ写真屋を呼んで焼け跡を撮影させたものである。



(図3) 戦争と平和の資料館ピースあいち
金子力氏提供

名古屋市名東区にある、NPOが運営する民営の戦争博物館である。愛知県下の空襲を中心に、戦時下の人々の暮らしやアジアの戦争、そして現代の戦争と平和について資料を展示している。

Best Selection ベストセレクションシリーズ

2024年入試 2023年4月発行予定 大学入学共通テスト対策はこれで万全!

大学入学共通テスト重要問題集



本文テキストWordデータ完備 対応

地理B

B5判/168p.(別冊解答56p.)/定価900円(税込)/Co.401064

世界史B

B5判/200p.(別冊解答80p.)/定価900円(税込)/Co.401065

日本史B

B5判/192p.(別冊解答80p.)/定価900円(税込)/Co.401066

現代社会

B5判/192p.(別冊解答72p.)/定価900円(税込)/Co.401067

倫理

B5判/192p.(別冊解答72p.)/定価880円(税込)/Co.401068

政治・経済

B5判/192p.(別冊解答72p.)/定価880円(税込)/Co.401069

※2024年入試用より上記価格に改定します